

「第10回著作権・著作隣接権論文募集」入賞論文決まる
2位に酒井麻千子さん。1位は該当者なし

「第10回著作権・著作隣接権論文募集」で、東京大学大学院情報学環助教の酒井麻千子さんの「18世紀後半～19世紀前半における絵画の複製と著作権—ドイツ(プロイセン)での議論を中心として—」が、2位に選出されました。また、下表のとおり、3位1名、佳作3名が選ばれました。なお、1位は該当者なしでした。

2015年3月末日の締切までに応募された論文は、個々の審査委員による審査の後、7月に、2回にわたる審査委員会で協議され、入賞論文が決定しました。今回の審査は、阿部浩二(岡山大学名誉教授、CRIC附属著作権研究所所長)、斉藤博(新潟大学名誉教授)、玉井哲雄(法政大学理工学部教授)、道垣内正人(早稲田大学法科大学院教授)、紋谷暢男(成蹊大学法科大学院教授)の各先生に行っていました。

「著作権・著作隣接権論文募集」は、次世代を担う著作権法制の研究者・実務者の研究を奨励することを目的として、1996(平成8)年度に開始し、2年ごとに実施しておりますが、これまでに50名以上の方が入賞されており、学界、法曹界や著作権関連業界で、現在活躍されている著名な方を多数輩出しています。

今回も、学部学生、大学院生、一般社会人など、さまざまな経歴の幅広い年齢の方々から応募があり、論文のテーマも、多岐にわたりました。

なお、入賞した論文は、論文集として刊行し、会員の皆様にお送りする予定です。

*本事業は、私的録音補償金管理協会(sarah)の著作権制度の普及を目的とする共通目的基金をもとに実施しました。

第1位	該当者なし	
第2位	酒井 麻千子(東京大学大学院情報学環助教)	18世紀後半～19世紀前半における絵画の複製と著作権—ドイツ(プロイセン)での議論を中心として—
第3位	野崎 岳彦(東京理科大学専門職大学院イノベーション研究科)	同一性保持権における、著作者の「意に反して」に関する一考察
佳 作	石居 天平(会社員)	ファッションデザインの著作権保護に関する一考察
佳 作	古場 和美(法政大学法学部)	死者のパブリシティ権を法理論から検討する—米国判例と筆者の設例による、いくつかの問題提起—
佳 作	栗原 佑介(放送大学大学院文化科学研究科情報学プログラム修士課程)	著作権法における文化資源保護機能の序論的考察—デジタルアーカイブと解釈上の包括的権利制限の可能性—

(敬称略。同位は応募者名の五十音順。所属は応募時のもの)